

主の御名を誇る

詩篇二〇篇

ある者は戦車を、ある者は馬を誇る。

しかし私たちは我らの神、主の名を誇る。(8)

詩人は、神の民の勝利は戦車や軍馬の数によるのではなく、主によって与えられると堅く信じて、主のみ名を誇りとするよう会衆に呼びかけます。当時の戦争においては、勝利の鍵は戦車や軍馬の量と質にあると考えられていました。そのため、王たちは自国の軍隊の戦車や軍馬を誇りとしたのです。けれども神を信じる民は、戦車や軍馬を整えながらも、勝利は主の手によるものと信じて、自分たちの力を誇るのではなく、主の御名をこそ誇りとしました。少年ダビデも巨人ゴリアトに対して、「お前は剣や槍や投げやりで私に向かつて来るが、私はお前が挑戦したイスラエルの戦列の神、万軍の主の名によって、お前に立ち向かう」(サムエル上二七45)と語って勝利しました。私たちも自分たちの能力や経験を誇るのではなく、ただ主の御名を誇りとする者たちでありたいと願います。